



一人ひとりの夢・思いを大切に

No.161

2024/10/1 発行

しなふく ニュース

品川総合
福祉センター
公式サイト



特集

東京都障害者総合美術展

入選おめでとう！



入選作品 制作：大森昭雄様 作品名「月世界」

2P サンかもめの創作活動紹介

3P 苦情解決第三者委員会

4P 夏の思い出 八潮南特養・中延 SC

5P かもめ園身体・会館生活介護

6P 地域とのつながり

7P 豆知識 | らうんじ

8P しなふくの窓 | お知らせ

▼自由な発想を大切に!!



▼喝采をあびてます「WAKU惑プラネット」
(当ニュース第160号表紙にも掲載)



▶入選した作品
「月世界」を持つ大森様



大森さま入賞おめでとう!

サンかもめの創作活動紹介

言うなれば、「他を寄せ付けない
集中力・想像力」
の持ち主の大森様です。
何事にも熱く、時に優しく。
好きな歌手は、石原裕次郎。



▲全身を使った作品作りも好評です!!



▲作っている際の表情も、作品の一部です



▲制作：川田様

サンかもめでは、「つくることを楽しむ」というコンセプトのもと創作活動を行っています。絵画、手芸、染めなど様々ですが、何かを作ることで想像力も育まれ、作品が完成する事で達成感を得られるように支援しています。興味や好奇心を抱くことは利用者の皆様の新たな経験にもなり、好きなことを探し見つけ出すことで、人生の豊かさにも繋がっていただけることを期待しています。

同じ箇所に何度も色をのせる人、スタンプを押す人、描きたいものを説明しながら描く人、指で直接描く人、自ら絵筆を握ら

ずに職員と一緒に筆を持つ人。利用者一人一人の特性が活かされるように、利用者の個性が強く前面にできる作品が仕上がっています。

最近では、東京都障害者総合美術展での入選をはじめ、品川区の障害者作品展に170cm×90cmの利用者全員での合作「WAKU惑プラネット」を出展し、皆様より好評をいただき、品川区の「障害者福祉のしおり」の表紙にも選ばれました。

これからも「TEAM SANKAMOME」! 多くの方に感動と勇気を与えてまいります。

苦情解決第三者委員会

令和5年8月21日に第44回、令和6年2月19日に第45回
苦情解決第三者委員会を法人本部で開催しました。

第44回

第44回では第40回～第43回で報告した件の経過報告と、1件の新規苦情案件を報告し、ご意見とご助言をいただきました。

お預かりしたメガネを紛失した件(経過)

ご意見

- ①貴重品チェックリストの活用、写真での管理。
- ②ご家族との関わり方について、丁寧に話をしていく。

公共交通機関での職員の言動について(新規)

バス車内で職員が事業所の批判を大きな声で話しており、不安を感じた近隣の方から改善の要望があった。

ご意見

- ①職員のモチベーションが高まる取り組み、職場環境の改善。
- ②職員へのフォロー体制の検討。
- ③苦情の根本的な原因を研究し、研修や対応策の検討。

ご意見・ご要望はこちらへ

施設サービスに対するご意見・ご要望は委員宛にご連絡ください。

また、社会福祉法人品川総合福祉センターの各事業所玄関に設置している「声のポスト」へ、お手紙を入れていただくことも可能です。

☎ 0120-37-4729

受付時間：月～金 9時～17時(土日祝・年末年始を除く)

苦情解決第三者委員

一ノ瀬 俊吉 / 中山 武志 / 野田 律子 /
深澤 佳美 / 古川 繁子 / 吉岡 卓 (五十音順)

第45回

第45回では第40回～第44回で報告した件、第44回で報告した件、新規案件1件を報告し、ご意見とご助言をいただきました。

お預かりしたメガネを紛失した件(経過)

ご意見

- ①短期入所利用者の荷物の管理方法の提示。
- ②家族対応に関する詳細の報告を毎回実施する。

公共交通機関での職員の言動について(最終)

ご意見

- ①今後も職員個人だけでなく、事業所全体での倫理や知識の向上に努めるように。
- ②研修に活用できるツールについては要望があれば提供可能。

職員の言動・対応への改善を求める件(新規)

職員に他の職員の愚痴を聞かされること、職員の業務に対する姿勢について改善してほしいと要望があった。管理者と職員が面接を行い、改善していく旨をお伝えしている。

ご意見

- ①苦情がある職員に対する指導方法や未然に防止する対応策の検討。
- ②事業所間での情報共有のあり方。



八潮南特別 養護老人ホーム



◀ (右) 会場の様子。雰囲気華やかに演出
(左) 素敵な笑顔でヨーヨー釣り

たびたび訪れる感染症の脅威などにより、余暇活動の規模縮小や中止と思うように開催できないことがありました。しかし、人が生きていく上で「楽しみ」を持つ事や「明るい気持ち」になれる時間はとても大切なもの。

そのような思いを胸に、今年度の余暇担当は活動の運営方法から見直し、グレードアップを目指しました。そのうちの1つが夏に開催した納涼祭。夏祭りがよく似合う熱血職員がメインの担当となり先頭に立って、限られたスペースと予算の中、工夫

を凝らして多数の模擬店を設置しました。ゲームや飲食を楽しむ皆さんの笑顔があちこちで弾けており、「ここまでしてくれるなんて」と涙ぐまれる方もいました。輪投げで高得点をとられる方やヨーヨーを嬉しそうに見せてくれる方、ゲームコーナーからは賑やかな声が聞こえます。飲食コーナーではかき氷とたこ焼きが人気でした。手作りベビーカステラの香りと最後には音だけですが花火も打ちあげ、雰囲気たっぷりの中、よい夏の思い出になってもらえたようです。

夏の思い出

中延在宅 サービスセンター



◀ (右) よく狙って
(左) 何個釣れたかな？

中延在宅サービスセンターでは、利用者を楽しめる時間を過ごしていただけるように季節ごとに様々なイベントを提供しています。

今年は「夏まつり」をイメージした催し物を企画しました。

最初のお楽しみは盆踊り大会。「品川音頭」「炭坑節」が流れると、利用者と職員と一緒に歌い踊りました。中には「毎年自治会の盆踊り大会で踊っていた」という強者もいてとても生き生きと話されていました。次のお楽しみはヨーヨー釣りや射的、お面作りなど夏まつり風なもの。

「懐かしいわね～釣れるかしら？」とにこやかな方もいれば、「射的はもっと端を狙うものだ！もっと距離を離しても俺は打ち抜ける！」とやる気満々の方もいました。それぞれ童心に帰って楽しんでいただけたようです。最後のお楽しみはスペシャルなおやつ。屋台風にフランクフルトやたこ焼き、他にも涼しげな色の冷たいゼリーをご用意しました。ほとんどの方がペロリと召し上がって下さいました。

皆さんの笑顔と「ありがとう」「楽しかった！」の言葉が印象的でした。

かもめ園身体



◀ (右) イライラ棒に挑戦！ゴールまでいけるかな？
(左) 夏を感じています！

かもめ園では、毎年恒例の「夏季行事」を行いました。利用者に「夏」を感じていただけるよう、職員が毎年、工夫を凝らし準備をしています。

今年は、屋上での水遊び、カラオケ大会とイライラ棒ゲーム、お楽しみ抽選会を行いました。

水遊びは、ビニールプールを使って、利用者も職員も一緒に水遊びを楽しみました。

カラオケ大会では、利用者が大きな声で美声を響かせて、採点80点を目指して歌いました。

「イライラ棒ゲーム」は手に持った「棒」を、

細い迷路のような通路に触れないように通り抜けるゲームです。道具は職員渾身の手作りです。ボランティアさんには、「頑張れ」と大きな声で盛り上げていただき、ゴールに辿り着いた時は、達成感を味わい、皆で喜び合いました。

お楽しみ抽選会では、夏ならではの商品をと考え、一等賞に風鈴と扇子を用意しました。

最後に、アイスを食べ、夏祭りの雰囲気を楽しんでいただきました。来年の夏も楽しい行事を企画していき、思い出を増やしていきたいと思います。

心身障害者福祉会館（生活介護）



◀ (右) ミストを脚に浴びて、気持ちいい！
(左) 何味にしようかな？

品川区立心身障害者福祉会館の生活介護は、約40名の利用者が毎日通っています。

毎朝、送迎車が会館に到着すると「おはようございます」と、利用者の元気な挨拶が聞こえます。職員も負けられないように、大きな声で挨拶をして「おはようございます」の合唱会で一日が始まります。

利用者の皆さんは、「作品制作」「カラオケ」「リハビリ」「調理」「館内屋上での外気浴」などの館内活動や、近隣公園への「散歩」、周辺商店街の「地域清掃」など、屋外の活動を行っています。

夏は猛暑が続いていたため、熱中症に注意しながら活動を行い、水遊びを行いました。水しぶきが日に照らされて、虹がキラキラと輝き、皆さんの目もキラキラとしていました。足を水につけてミストがかかると、思わず笑顔が溢れました。

水遊びの後は、かき氷を準備しました。「何味にしようかな」「イチゴもいいなあ」と、話をしながらシロップを選んで皆で食べました。

暑い中でも「涼」を感じることができた、夏の一コマとなりました。

地域との つながり

こどものつどい 夏の体験ボランティア

こどものつどい

8月3日（土）に、こどものつどいを開催しました。こどものつどいは、幅広い年齢層の子どもと高齢者や障害者が同じ空間で楽しむ交流の機会を通し、共助と思いやりの心を育てることを目的に開催されています。

今年は、日本伝統文化「しめ縄」を学ぶコーナー、視覚障害を紙芝居で学ぶコーナー、職員手作りのゲーム「イライラ棒」やボッチャを使ったゲームなどを、施設の利用者と地域の子どもたち11名とその親御さんが集まりました。企業ボランティアのプルデンシャル生命保険株式会社大崎第4支社の11名の皆さんのサポートをいただき、楽しく盛り上がりました。細い藁わらを使い、両手でよって縄を作る体験は、藁わらをたく作業から本格的でよい体験になったと声をいただきました。視覚障害のある講師による

紙芝居では、視覚障害があることで困ることのわかりやすい説明に、「見えないのにどうやってiPhoneを使っているの？」など素朴な質問も飛び交いました。

子ども達だけでなく、親御さんや関わったスタッフにも学びの多い時間となりました。



▲今年も様々なメニューで楽しみました

夏の体験ボランティア

品川総合福祉センターでは、毎年夏、中学生から大学生の体験ボランティアを、法人内事業所15施設でメニューを用意し、受け入れています。今年は8月から9月で、法人全体で延べ人数18名を受け入れました。

その中でも、地域福祉課では、福祉体験が短時間でできるミニ講座と、地域と施設が「つながる壁」の装飾の2つのメニューを用意しました。

福祉講座では、7種類の障害の概要とその接遇を学び、車椅子の使い方、点字体験、手話体験をし、装飾では、美術系の学校に進みたいという今回の参加者の高校生と一緒に、9月アルツハイマー月間のための装飾を行いました。ある材料でレイアウトを考え、紙で作った老夫

婦を子どもたち、犬や猫の折り紙を夏の花で囲み、優しい社会を目指してという願いを込めて、装飾を完成させました。「つながる壁」は、玄関正面にあり、利用者はじめ多くの方に見ていただき、フォトスポットにもなっています。「また飾りたい。」と感想をいただき体験ボランティアを終了しました。ぜひ、またお手伝いに来てください。



▲「アルツハイマー月間9月」に合わせた作品制作をしました

豆知識

日本の福祉の始まりと語源

みなさんは、日本の福祉の始まりと、福祉の語源についてご存じですか？

福祉の仕事というと、残念なことに「辛い・汚い・給料が安い」といったネガティブなイメージが先行していますが、起源や語源を知ることにより、福祉に対する印象が変わるかもしれません。

日本の福祉の始まりは、諸説ありますが、根底は江戸時代にあったと言われていています。当時は、憲法などがなかったため、福祉制度も整ってはいませんでした。その中で江戸時代の農村では、「村落共同体」といって、家族やコミュニティ内で相互扶助するという文化がありました。つまり、村全体で助け合っていたのです。日本人の助け合いの文化が日本の福祉の始まりになります。

次に、福祉の語源についてです。福祉は、「しあわせ」を意味する「福」という漢字と、「さいわい」を意味する「祉」という漢字の組み合わせになっており、「人の幸福」や「よりよく生きること」という意味が込められています。

つまり福祉とは、**相互に支え合っていく、「共生社会」の実現と、誰もが幸せを感じられるような生き方について考えるということ**なのです。

福祉の起源や語源に立ち返り、福祉の本質を考えるきっかけになれば幸いです。



らうんじ



猛暑の夏が終わりようやく秋を迎えました。

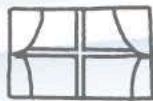
今年の夏はオリンピック・パラリンピックが開催され、非常に盛り上がりました。

オリンピック・パラリンピック関連のニュースを見ていたところ、「体操選手が喫煙、飲酒をしてオリンピックに参加できなくなった」「オリンピックで柔道選手が負けたときに泣き崩れてしまった」等の記事が出ていました。それに対して様々な意見、主張が交わされていました。今まで自分が当然と感じていたことが、国や文化の違いや、個人の考えなどで、全く異なるとらえ方をしていることに衝撃を受けました。多様性をどう認めて、どう対応できるかが問われる時代になったと感じました。

品川総合福祉センターでも、利用者の方々、ご家族、ボランティア、職員、地域の方々と関わりを持っており、価値観や考えかたも様々です。多様性を尊重し、認め合いながら、福祉の発展のために努力していければと思います。

品川総合福祉センター かもめ園副施設長 三日月 透

しなふくの窓



このコーナーは普段は目に留まらないちょっとしたホッとするものをしなふくの「窓」を通して写真で紹介するコーナーです。



秋の背景にクマのキーホルダーを飾っています

品川総合福祉センター6階の作業場には、かもめ園の身体部門に入所されている方が、平日に毎日仕事をしています。外部の業者からの委託で、メロンやトマトを入れる箱作り、タオルたたみや、ビーズアクセサリーの作成等を行っています。

利用者が制作した作品を、販売するレイアウトは職員が行っています。毎月、額に季節の背景を彩り、限られた作品をどう選抜するか、作品の良さを生かすため、背景の選び方も考えています。本部売店に飾っています。利用者作品とともに是非、ご注目ください。

くつろぎ祭・しなふく紅葉フェスタ

今年度も規模縮小の中での開催となります。

くつろぎ祭

10月12日(土) 時間：11:00～14:30
 場所：中延複合施設駐車場(品川区中延6-8-8)
 内容：源氏前小学校吹奏楽・模擬店販売 他

しなふく紅葉フェスタ

10月20日(日) 時間：11:00～14:30
 場所：品川総合福祉センター本部駐車場(品川区八潮5-1-1)
 内容：八潮学園吹奏楽部・キッズチアダンス・リズム舞踊・ファッションショー・模擬店・作品販売 他



▲ 昨年のフェスタでのひとこま 仮装の怪獣と一緒にポーズ

正職員
 非常勤職員
 学生アルバイト

大募集!!

まずは興味のある施設の見学をしてみませんか？

募集施設 品川区内の高齢者施設・障害者施設・保育園

募集職種 介護士・生活支援員・保育士

介護支援専門員・看護師 等

応募・問合せ先 社会福祉法人品川総合福祉センター 総務課

メールアドレス soumu@shinafuku.org

電話番号 03-3790-4729

受付時間 平日 9:00～17:00

品川総合福祉センター広報誌 しなふくニュース No.161

2024年10月1日発行

発行人：永田元

編集人：しなふくニュース編集委員会

URL：https://www.shinafuku.com/

発行所：

社会福祉法人品川総合福祉センター

☎ 03-3790-4729

📍 〒140-0003 東京都品川区八潮5-1-1